



クローズアップ
CLOSE UP

浴衣と飾りが彩る七夕

夏の風物詩の一つである、前橋七夕まつりを今年も開催。まちなかで、浴衣を着た人や色とりどりの七夕飾りで鮮やかに彩られました。今年は「令和」をモチーフにした飾りがたくさん登場。祭り2日目からは露店も並び、学生や家族連れなどでにぎわいました。



願いを込めてパレード

アーツ前橋で6月29日、アーティストの山本高之さんを講師にチルドレンズ・プライドを開催。子どもたちが「こうなったらいいのにな」という願いや夢をプラカードに書き、中央通りをパレードしました。このプラカードは七夕飾りとして同館で展示しています。



梅雨を彩る花咲き誇る

環境システム荻窪公園で6月23日、アジサイまつりを開催。だんべえ踊りの披露や物産販売、スタンプラリー、シュロの葉工作などたくさんの催しがあり、多くの人でにぎわいました。思い思いのアジサイを探して散策する人々を、10種約1万6,000本のアジサイが迎えました。

いきいき
まえばし人

子どものくらしを守る会代表
渡邊博儀さん 75歳(右)
渡邊まさひさん 72歳(左)
六供町

丸い折り紙でみんなを笑顔に

渡邊夫妻は、ボランティア団体「子どものくらしを守る会」の代表として、子どもたちに折り紙作りを教える活動を20年以上続けている。「折り紙といえば正方形を思い浮かべる人が多いと思いますが、私たちは、丸いものを使っています」全国的にも珍しい丸い折り紙を使って活動する2人。「妻の実家が前橋市内で丸い折り紙を製造販売していました。引き継いだ製造工場は、10年ほど前に閉鎖しましたが、ボランティア活動で必要な分を、現在もなんとか作り続けています」と博儀さん。「丸い折り紙は、幼児から大人まで楽しめるだけでなく、情操教育にも最適」とまさひさんが続ける。指先の運動は脳に刺激を与える効果があるため、高齢者の会合やサロンに呼ばれたら、折り紙講習にはたくさん子どもが参加したりと大人気だ。折り紙に真剣に取り組み子どもたちが完成した時に見せる笑顔が大好きな2人。「見本どおりにできなくてもいいので、自由に作ってほしい」と優しく話す。さまざまなサイズの丸い折り紙を組み合わせることで、無限の形が生み出せる魅力がこれからも伝えていく。



萩原朔美
河畔奇譚
THE BLUE CAT
猫青案
vol.14

前橋文学館
027-235-8011



● 情操教育でしか得られないもの住友(以下S) AIが計算や事務をやるようになる中、今の教育は逆行していると思っていて、これからは創造性が必要なのに、情操教育である芸術系が全国的にも授業から減らされている。まるで受験が全てのようなです。萩原(以下H) 「社会に出て役に立たない芸術系を外そう」という考えは間違いだよ。どの業界でも創造性がないと、新しいことはできないよ。

前橋文学館長の萩原朔美が著名人と対談。さまざまな領域で活躍する館長が各界の人々とあれこれ語り合います。今回は住友文彦アーツ前橋館長との対談2回目をお届けします。

S これからオリンピック、外国人の人口はきつと増えていきます。そう言ったとき、受験のための勉強以上に演劇や美術、音楽といった芸術系の科目がとて大事になると思うんです。H 芸術分野って、異文化とのコミュニケーションツールにもなるしね。こういうコミュニケーションは、子どもの頃から体験しておくことが大切。S その通りです。日本の学校に通う外国人の子どもたちは、情操教育が少ない中、居場所や思いを表現する場を得られるのだからかと心配しますよ。H 今の時代、運動会でも競争させないようになってきたと聞くけど、体育だけが得意な子もいると思う。色んな個性を肯定していかないといけないよ。 (10月1日号へ続く)

